

2008年4月

ファイザー株式会社
「一般生活者における潜在的うつ病の実態調査」

参考資料

- I. 調査結果のまとめ
- II. 調査概要

「母集団拡大集計」について

この件に関するお問い合わせ先

ファイザー株式会社
製品広報部 鈴木 実
TEL : 03-5309-6719

I. 調査結果のまとめ

おことわり:

今回の調査では、うつ病・うつ状態の実勢に近い発現率を比較するために、集計に際して「母集団拡大集計」を採用しています。そのため、グラフの%表示は、母集団(10代以上の国民)の比率を表示していますので、比率別の回答数は表示していません。

(詳しくは文末を参照ください)

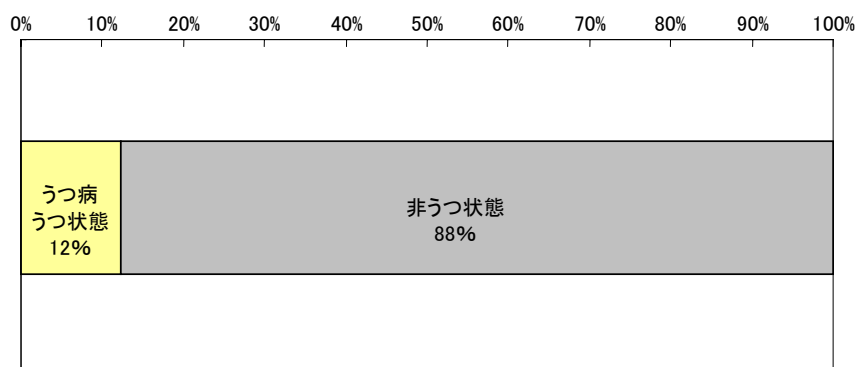
■調査で示された傾向として、一般生活者の12%、約8人に1人がうつ病・うつ状態

調査対象者4,000人のうつ質問票の調査結果の分析から、母集団の12%、つまり約8人に1人がうつ病・うつ状態の可能性があることがわかりました(表1)。

この設問では、アメリカ精神医学会で定義している精神疾患の分類、診断のマニュアルと基準であるDSM-IV(The Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, Volume 4)に準じた、精神障害のプライマリケア評価のためのうつ症状スクリーニング用アンケート「PRIME-MD Patient Health Questionnaire(PHQ)」の質問項目を活用して作成されている「うつ質問票」を活用し、「うつ病・うつ状態」を判定しました。

表1:うつ質問票によるうつ病・うつ状態の出現率

(n=4,000:調査対象者にうつ質問票でうつ病・うつ状態に該当した比率)



■うつ病・うつ状態に該当した人のうち、医療機関を受診したことがあるのは 24%

うつ質問票でうつ病・うつ状態に該当した 486 人に対し、「医療機関を受診したことがありますか」と質問したところ、「受診したことがある」と答えたのは 24%にとどまりました（表 2-1）。また、うつ質問票でうつ病・うつ状態に該当し、かつ「過去にうつ病・うつ状態と感じたことがある」と答えた 384 人に限定して同様の質問をしてみると、「受診したことがある」と答えたのは 30%でした（表 2-2）。

表 2-1:うつ質問票で該当すると回答した悩みを解消する為に、医療機関を受診しましたか。
[SA](n=486:PHQ 質問票でうつ病・うつ状態に該当した回答者)

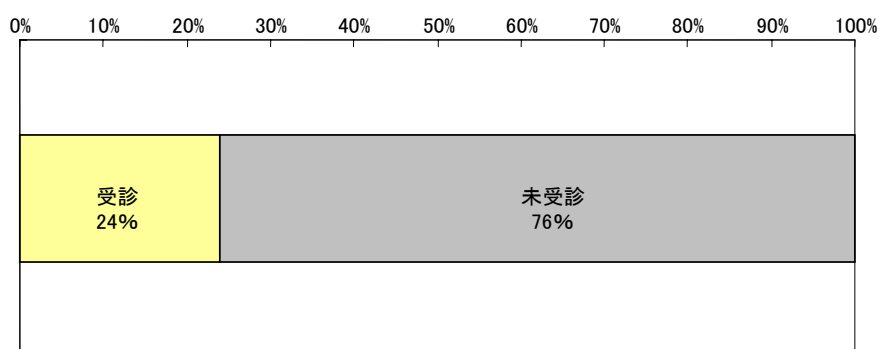
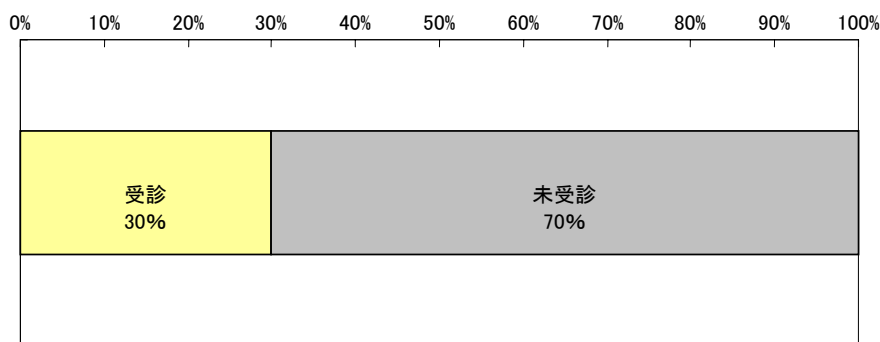


表 2-2:うつ質問票で該当すると回答した悩みを解消するために、医療機関を受診しましたか。
[SA](n=384:うつ質問票でうつ病・うつ状態に該当し、かつ過去にうつ病・うつ状態と感じたことがある回答者)

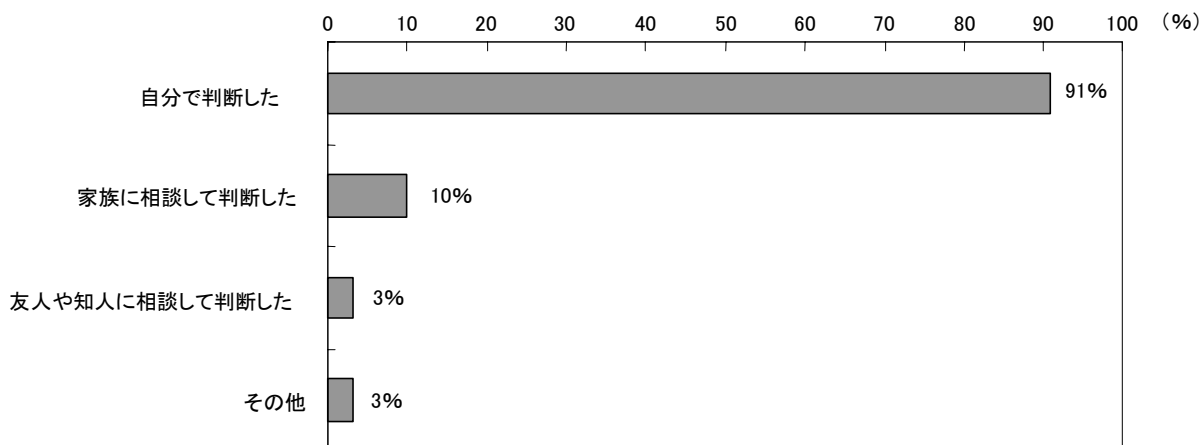


■うつ病・うつ状態に該当した人の医療機関受診率は、自分で受診を決めた人が 15% に対し、誰かに相談して受診した人が 83%。周囲の助言が受診の大きな後押しに

うつ質問票で「うつ病・うつ状態」に該当した 486 人に対して、「医療機関への受診について、誰かに相談しましたか」と尋ねたところ（複数回答可）、「自分で判断」が 91%、「家族に相談して判断」が 10%、「友人・知人に相談して判断」が 3%、「その他」が 3%でした（表 3-1）。

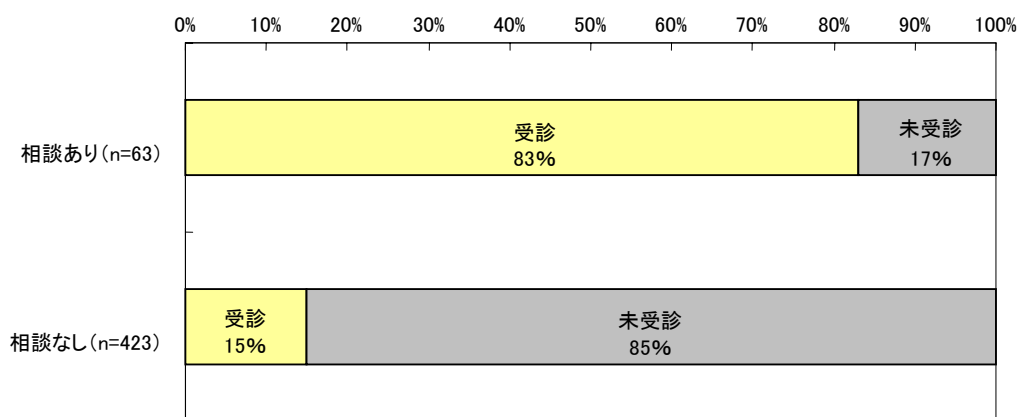
表 3-1: 医療機関の受診について、誰かに相談しましたか。[MA]

(n=486: うつ質問票でうつ病・うつ状態に該当した回答者)



一方、「家族に相談して判断」、「友人・知人に相談して判断」、「その他」を選択した人の 83% が医療機関を受診しているのに対し、「自分で判断」した人は、15% しか受診していないことがわかりました (表 3-2)。

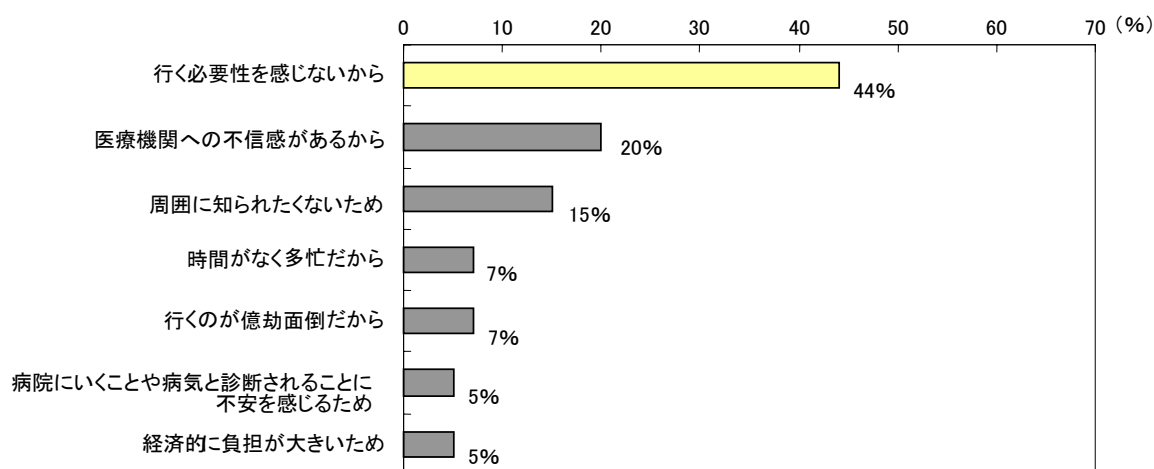
表 3-2: 他者への相談の有無による医療機関受診率の比較



■うつ病・うつ状態と感じても医療機関を受診しない理由は「行く必要を感じない」が 44%

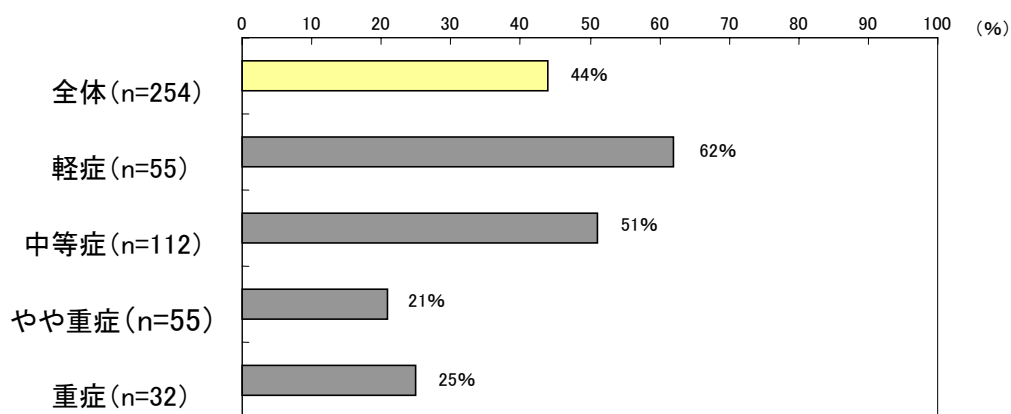
うつ質問票でうつ病・うつ状態に該当し、かつ医療機関を受診していない 254 人に「医療機関を受診していない理由」を質問したところ (記述回答)、「行く必要を感じない」が 44% で最も多く、医師の診断を受ける前に自己判断しているようです。次いで「医療機関への不信感がある」(20%)、「周囲に知られたくない」が 15% でした (表 4-1)。

表 4-1: うつ質問票でうつ病・うつ状態に該当した回答者の医療機関を受診しない理由 [FA](n=254)



うつ病・うつ状態に該当した人のうち、「医療機関に行く必要を感じない」と回答した人の症状別の割合を見てみると、軽症の 62%、中等症の 51%、やや重症の 21%、重症の 25%でした (表 4-2)。

表 4-2: うつ病・うつ状態該当者で医療機関を受診しない理由を「行く必要性を感じないから」と回答した割合 (n=254)



Ⅱ. 調査概要

1) 調査の目的

一般生活者のうつ病に対する認識、また医療機関での受診状況や受診に対する意識、うつ病に関する知識についてその実態を調べることにより、現代社会において増加傾向の一途を辿るうつ病に関する医療向上のきっかけと受診に際してのバリアを探ることで、よりよい方向性を見出すことを目的としています。

2) 調査の対象

- ・ 調査対象：12歳以上の日本国内在住の一般生活者
- ・ サンプル数：4,000名
- ・ 調査方法：インターネット調査、母集団拡大集計（※次頁参照）を採用

3) 調査の実施期間

- ・ 2007年2月7日（水）～2007年2月16日（金）

(注) バイアスに関して：回答者がインターネット調査の対象となったことや、疾患に関心を持って回答したといったことが、回答に何らかの影響を持っている可能性があります。この調査によって生じる偏り（バイアス）が結果に含まれている可能性があります。

「母集団拡大集計」について

「母集団拡大集計」は、実際のサンプル数を母集団の数に合わせて換算することで、調査結果を実勢に近づける集計方法です。本調査では、回収サンプル数に国民の人口構成比を考慮した上で、性別・年齢別にウェイトを乗じて集計しています。具体的には、「総務省平成13年度10月男女別・推計人口」÷「性別・年齢別の回収サンプル数（有効回答数）」で求められるウェイトを配分することで、実際の日本における人口構成比を反映した実勢に近い結果となるように集計されています。

本調査の性別・年齢別のウェイト値は下記の通りとなります。

	母集団 (N)	回収サンプル数 (n)		ウェイト値
男性:10代～24歳(※1)	10,067,819	126	→	79,903
男性:25歳～29歳(※2)	4,098,154	203	→	20,188
男性:30代	9,166,607	254	→	36,089
男性:40代	7,821,427	280	→	27,934
男性:50代	9,383,638	362	→	25,922
男性:60代以上	14,146,550	716	→	19,758
女性:10代～24歳	9,564,579	253	→	37,805
女性:25歳～29歳	3,966,421	498	→	7,965
女性:30代	8,943,847	346	→	25,849
女性:40代	7,737,809	280	→	27,635
女性:50代	9,514,613	318	→	29,920
女性:60代以上	16,996,270	364	→	46,693
	↓	↓		
TOTAL	111,407,734	4,000		

●母集団 (N) は、「総務省平成13年度10月男女別・推計人口」による

●ウェイト値＝母集団 (N) ÷回収数 (n)

集計時には、各サンプルの年齢・性別に該当するウェイト値を割り付けて計算している。

(※1) 調査対象は12歳以上ではあるが、総務省の統計データが5歳階級ごとの数値を採用していることから「10代～24歳」と表記。

(※2) 10代～20代の若年層は、就学者が多い群と就労者が多い群が存在することから、調査結果をより実勢に近づけるためにこのような区分を採用。